

## 不正検知アルゴリズム推進

セブン銀行子会社と地域銀へ

静岡銀

【静岡】静岡銀行は、4月から「不正検知アルゴリズム」を地域銀行へ推進する計画。インターネットバンキング（IB）での不正を検知するもので、共同開発したセブン銀行子会社・ACSIION社と進める。ネットワークを広げて、協力して犯罪被害防止を進めたい考え。各金融機関も早期の対策が必要なため、幅広く導入される可能性がある。

投資詐欺や偽電子商取引（EC）サイト詐欺などに使われる不正口座を検知し、複雑化するインターネットでの金融犯罪を未然に防ぐ。同社が提供する不正検知プラットフォーム「Detective

」に搭載し、実証実験を経て2023年12月22日までに本格稼働した。NTTデータ個人顧客向けIB「AnserparaSO L」と連携するシステム。

同アルゴリズムは、不正取引の「振る舞い」が認められた口座を即時に検知。振り込み詐欺などの被害で振り込んだしまった資金を犯罪組織に届く前に口座利用を停止する。不正を高確度で抽出でき、不正行動データも蓄積。さらに高精度な検知につなげるようアップデートしていく。通常取引の利便性を損ねることはない。犯罪者の怪しい「振る舞い」を検知すると

いう挑戦は、23年9月に始まった。ACSIION社が作成していた60項目に、「インターネットバンクを活用した口座開設直後の動き」「端末のアクセス情報」——など約30項目の「振る舞い」を追加。約100項目の組み合わせで検知できる体制を整備した。23年10月25日～11月6日の試験稼働で22件の不正を検知する結果を踏まえて調整し、本格稼働となった。

現在、不正が検出されると、デジタルチャネル営業部・コンプライアンス部にアラートが作動する仕組みとしているが、ユーザーの利便性を損なわないアラート作動のチューニング、項目の組み合わせの設定と追加シナリオも検討していく。